

どこに住んでも地球人！～みんなで解決 学級の底力～

小学校低学年～中学年

ねらい 身近な外国の人と肯定的な出会いをし、その思いや願いに共感する。
外国人児童を中心に、どの子ども気持ちよく生活できる仲間づくりをする。

気づく

ちがいは宝 みんなちがってみんないい

「 」ってどんな国？
「 」から来たAさんの家族を招いてお話を聞く。
「 」の歌とダンスを習う。

留意点

- ・同じ学校に学ぶ、外国人児童の家族との楽しい出会いを通して、その国の友だちに関心を持つ。
- ・家族を招くにあたっては、事前に指導者が十分なコミュニケーションをとって相互理解を深めておく。通訳の依頼や、家族の就労状況の把握などの配慮が必要である。

国の自然や文化、歴史、日本との関わりなど、子どもの発達段階に応じた話を聞く。インタビュー形式等。
補助教材「ブラジルボックス」(滋賀県国際交流協会)や写真など歌とダンスの例；
中南米の童謡「アロス・コン・レチエ(お米のデザート)」

広げる・深める

Aさんの家族の思いや願いを聞こう

困っていることを中心にAさんの家族の思いや願いを聞き、疑似体験する。

留意点

- ・家族と共に思いを語ることで、Aさんの自尊感情が高められるように支援する。

困っていることの例；
・給食が食べられない
・一緒に遊びたいけど仲間に入れない
・言葉がわからない 等疑似体験の教材例；
・外国語の料理メニュー
・子どもにあまり馴染みのない臭いや味のある食品
・ルールを知らない遊びの道具など

計画する

わたしたちにできることを考えよう

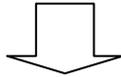
Aさんの家族が困っていることをまとめる。

解決に向けて校内でできることについて話し合い、「みんなで解決！学級の底力」作戦を立てる。

留意点

- ・困っている仲間の思いに共感し、自分たちができることを通して何とかしようとする態度を育てる。
- ・問題解決に向けてのアイデアをブレインストーミングなどで十分に出させる。
- ・成功可能な作戦プランができるよう支援をする。

作戦の例；
「言葉がわからない」
・教室の掲示を 語にする。
・ 語カルタ作り
「給食が食べられない」
・食文化の違いを知って給食の約束を見直す。
「一緒に遊びたい」
・誰もがわかる遊びを学級でする日を決める。
・Aさんの意見を聞いてルールを見直す。



実践する

「みんなで解決！学級の底力」作戦を実行しよう

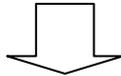
作戦を実行する。

- (例)・学級内の注意書きや係り当番表示を 語との併記にする。
- ・給食のルールを見直す。
 - ・言葉がわからなくてもいっしょに遊べるルールを考える。
 - ・朝や帰りのあいさつを多国語で行う。 など

留意点

- ・グループに分かれて具体的な方法を考えられるよう工夫する。
- ・文化や習慣などの違いがあっても、交流し合い安心して暮らしていける仲間づくりを進めていけるよう支援する。

可能であれば、Aさんに通訳をつけ、子どもたちの取り組みに対して意見が出せるようにする。



振り返る

作戦を振り返ろう

自分たちの力でできたことをグループごとに発表し合う。

作戦についてAさんの意見を聞く。

留意点

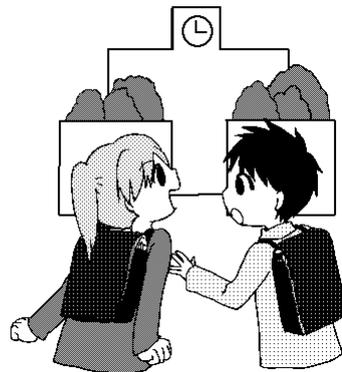
- ・できたことについて共に喜び合い、充実感を味わう。
- ・課題を解決していった視点やプロセスを振り返ることで、子どもたちの活動の意義を確認する。
- ・この取り組みで学んだことが、他の学習や生活の中で生かせるよう事後指導も大切にする。

発表会

- ・取り組みの様子を発表に活かす。
- ・保護者参観や、校内人権集会に発表機会を持つことで、さらに啓発効果を生む。

Aさんの意見を聞くとき、可能なら家族の声を聞く場を持つ。

学級の中にある他の課題について、発展的に扱うこともできる。



【学習を進めるにあたって】

- ・在籍する外国人児童の思いや願いと重なる取り組みとなるよう配慮が必要である。そのため、指導者だけで進めないで、子どもたちと一緒に企画していくことが大切である。